

# 農地・水・環境保全だより第52号

編集・発行 三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

## 「多面的機能の維持・発揮活動 第13回みえのつどい」を開催しました

令和4年12月3日（土）三重県総合文化センターにおいて、『明日につなごう、みえの宝』をテーマに第13回みえのつどいを三重県、三重県農地・水・環境保全向上対策協議会の主催で開催しました。

今回のつどいは、新型コロナウイルス感染症の蔓延による2年間の中止を経て、入場者数を制限するなど新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して3年ぶりに開催し、県内の活動組織や県内外の関係者約770名の参加がありました。

みえのつどいは、参加される多面的活動組織が他組織の活動事例や取組姿勢に触れることで、今後の農地・水・環境の良好な保全活動をより一層活発に取り組んでいただくためのきっかけ作りの場としても活用いただいております。今回のつどいでは地域コミュニティや活動をより持続可能なものにするといった視点で、講師による基調講演及びパネルディスカッションを行いました。

当日は三重県廣田副知事の主催者挨拶の後、農林水産省東海農政局小林局長及び三重県議会前野議長からご祝辞をいただきました。



廣田副知事の挨拶



開会式の様子



基調講演の様子

その後、基調講演では、一級建築士のかたわら地域コーディネーターとして活躍されている、合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員 浅見雅之氏より「地域のリーダー/後継者の育て方～多様な担い手による持続可能な地域運営をめざして～」と題してご講演をいただきました。

基調講演では、「地域活動の担い手不足の解決には女性や若者、よその人たちなどの多様な主体の参画に目を向けるべきで、そのために世帯ではなく個人の活動への参加や会合内容がオープンになっていることが大切であり、その上で、誰が何を言っても怒られない会合が、新しい時代に存続していける地域の条件である」とお話いただきました。

休憩後のパネルディスカッションでは、津市「上ノ村環境保全プロジェクト」の木村和正氏、多気町「多気町勢和地域資源保全・活用協議会」高橋幸照氏、玉城町「清し有田佐田沖環境保全会」大藪成明氏の3名のパネリストと基調講演を行った浅見雅之氏がコーディネーターとなり「持続可能な地域活動のヒント」と題しパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションの様子

3名のパネリストによる活動紹介の後、質疑応答ツール「Slido」を活用し、会場からの質疑に適時対応する新しい形のパネルディスカッションを行い、継続的な活動に向けた取組事例を交えながら議論していただき、とても貴重で有用なアドバイスをいただくことができました。



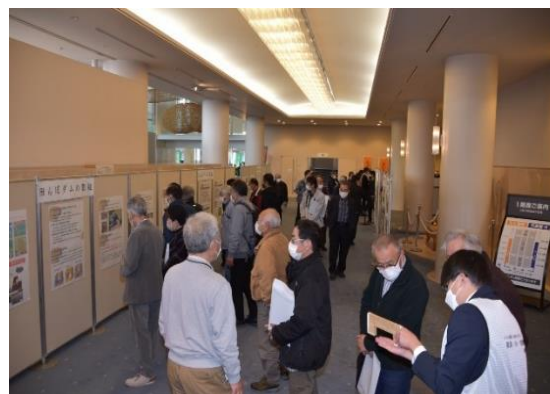
レセプションルームでの企業PR展示

資源向上活動の「機能診断、補修技術等の研修」と位置づけられたレセプションでの企業PR展示コーナーでは、農地や農業施設の維持に関する技術や製品の展示が行われ、多くの参加者が会場内に設けられた企業ブースを移動し、興味あるブースの担当者からおのの疑問点等の説明を受けていました。

また、大ホールロビーには過去の優良活動表彰、活動組織紹介、田んぼダムの取組などの三重県からのPRが展示され参加者は時間の合間を見計らって見入っていました。

上記内容をもって、「第13回みえのつどい」は盛会裏に終了しました。

今後もこうした「みえのつどい」の場を通じて、県内の農地・水・環境の良好な保全活動を支援してまいります。



大ホールロビーの様子

多面的機能の維持・発揮活動  
第6回紀北のつどい を開催しました

令和4年11月1日、多面的機能の維持・発揮活動 第6回紀北のつどいを開催しました。コロナ禍で開催を自粛していたため、令和元年度以来3年ぶりの開催となりました。感染予防の観点として、外部講師によるWeb講演、3会場でのオンライン開催等、内容・方法を工夫しました。

なお、Web講演については「紀北サル被害対策研修会」と銘打ち、多面的機能活動組織以外の一般農業者の参加も可能としました。

実施会場：紀北町役場（メイン会場）、紀北町海山支所（サブ会場1）、県尾鷲庁舎（サブ会場2）

参加者数：61名（うち活動組織メンバー：7組織10名）

<内容>

**Web講演：紀北サル被害対策研修会（兵庫県立大学：山端教授）※一般参加可**

「耕作放棄地の柿の木等、人が『被害と思わない』餌があり、これが餌付けとなってしまっている。集落ぐるみでの餌場の管理、追い払い、緩衝帯整備等の『被害管理』が重要であり、それを行政が支援することでサル被害は必ず軽減できる。」との講演をいただき、集落と行政が一体になって対策を実施していくことの重要性を認識しました。

**刈払機安全研修**

DVD視聴による研修を実施しました。

**畦畔管理紹介（紀州地域農業改良普及センター：山本技師）**

雑草対策が課題となっている畦畔管理において、ノシバによる省力化の実証実験を紹介いただきました。実証圃場の方からは、草刈りの回数が減り、もっと広げて行きたいとの声があるそうです。

**田んぼダム紹介（農山漁村づくり課：浦田係長）**

堰板1枚でできる治水対策の田んぼダムを紹介していただきました。

<まとめ>

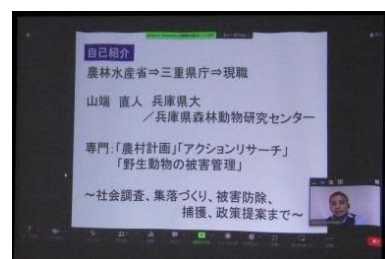
当地域においては、特に獣害対策、耕作放棄地の対策について要望の声が多く、参加者からは、「非常に良い講演だった」との声もいただきました。今後も状況を踏まえた内容で、参加者にとって有意義なつどいを開催していきます。



メイン会場



サブ会場



山端教授によるWeb講演



畦畔管理の紹介

多面的機能支払活動  
「第3回熊野地域のつどい」を開催しました

令和5年2月21日（火）に、三重県熊野庁舎にて、多面的機能支払活動「第3回熊野地域のつどい」を3年ぶりに開催しました。



岡本所長による開会挨拶

管内の活動組織と来年度以降に活動を開始する予定の地区、あわせて20組織（地区）25名の参加がありました。

開会挨拶の後、熊野農林事務所の取組として、管内で17組織ある活動組織の方に地域の現状や今後の展望をインタビューし、記事を作成していることを紹介しました。作成した記事は熊野農林事務所のHPに掲載して広く発信しています。



インタビュー記事のパネル展

【令和4年度の活動組織数】

熊野市：4組織 御浜町：4組織  
紀宝町：9組織



熊野農林事務所 HP

今回のつどいでは、平成19年度の農地・水・環境保全向上対策の時代から15年以上活動を継続している「五郷環境をまもる会（熊野市）」「大里農村環境活動組織（紀宝町）」「高岡環境活動会（紀宝町）」の3組織について、これまでの活動に敬意を表するとともに、今後より一層の活躍を期待したいという思いから「長期活動表彰」を実施しました。

表彰を受けた組織は、「人口が減少しているなかで、地域の状況は厳しくなっているが、いろいろな方に支えてもらいながらここまで活動を続けることができた。今後もみんなで協力しながら頑張っていきたい。」と意気込みを語りました。



長期活動表彰式での記念撮影

表彰の後には、活動組織間及び他地域の方との交流や、情報・意見交換を目的として、ワークショップを実施しました。

「多面的機能支払の活動や、地域の自慢を出し合おう」というテーマでは、「景観植物を多くの人が見に来てくれた」「田植えや稲刈り等を小学生と一緒にしている」「活動後の雑談が楽しい」など、各テーブルで活発な意見交換が行われていました。



ワークショップの様子

今回参加された皆様にとって、地域の魅力を再発見するとともに、他地域の良い取組を持ち帰り、より活発な活動につなげていただく機会になれば幸いです。

また、アンケート結果からは「参加して良かった」という声も多くいただき、今後も組織や地域が抱える様々な課題を解決するため、活動組織の皆様との連携を密なものとし、研修会や情報交換会などの開催を検討してまいります。